

「三河の米粉入りパン」を三河地区発売！

～地元農林水産業と食品産業が一体となった共同企画～



6月30日、「JA あいち中央」および、「黒柳製粉(株)」、「山崎製パン(株) 安城工場」、「明治用土地改良区」によって共同で企画された「三河の米粉入りパン」が7月1日(火)から発売されるにあたって、共同企画を行った関係者が東海農政局に来局されました。

この取組は、昨年末、食料自給率向上と農地確保・有効利用を目的に米粉製品の開発を呼びかけていた「明治用土地改良区」の趣旨に、三河地域の地元三者が賛同したことが契機となって始まりました。

三河地域に矢作川の水を供給している「明治用土地改良区」、その水で稲を育てている「JA あいち中央」、米を米粉に製粉する「黒柳製粉(株)」、米粉をパンに加工する大手メーカー「山崎製パン(株) 安城工場」という全国でも稀に見る同一地域内の連携により、地元産米の加工食品(パン)の利用拡大により地産地消を推進するとともに、地域の食料供給能力向上を図るものです。

当日は、明治用土地改良区深津地域活動室長、山崎製パン(株) 安城工場伊藤工場長、JA あいち中央神谷営農部長、黒柳製粉(株) 黒柳代表取締役が取組の趣旨を説明し、農政局幹部と懇談を行いました。

初めに、深津室長より米粉パン製造の契機と経緯について説明を受けた後、岩元局長から「この様な農業者・地域と企業が一体となって連携して作り上げた農商工連携事業はすばらしく、今後とも発展させてもらいたい」と激励されました。飯田局次長からは「工場と農地が一緒にあるのは全国的にも恵まれた条件であり、全国にこの取り組みを発信してもらいたい」。永嶋整備部長は、「明治用水によって地域が水で繋がっている、この水と人と地域の繋がりは重要」と話されました。

農政局としても食料自給率向上に向けて、この様な取組を支援していきたいと考えています。

